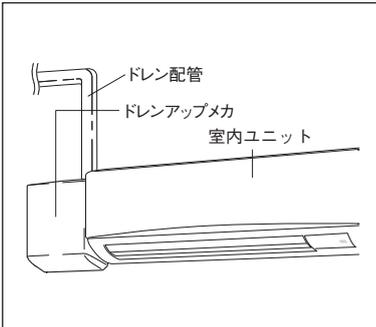


ドレンアップメカ

● PAC-SK01DM

使用目的 / 用途



- “ドレンアップメカ” は、ドレン配管の横引き距離が長く、ドレン勾配が取れない場合に使用する部品です。
- 本品は室内ユニット左側の壁面の取り付けとなります。(ユニット外付けタイプ)
- 850mm (本体下端より) のドレンアップが可能となり、配管工事の自由度が上がります。

注意

- ・ 排水側は下り勾配 (1/100 以上) としてください。
- ・ 本品から外部に至るその間で、ドレン配管は全て断熱を施してください。
- ・ PAC-SH75DM/PAC-SH94DM と本製品との互換性はありません。

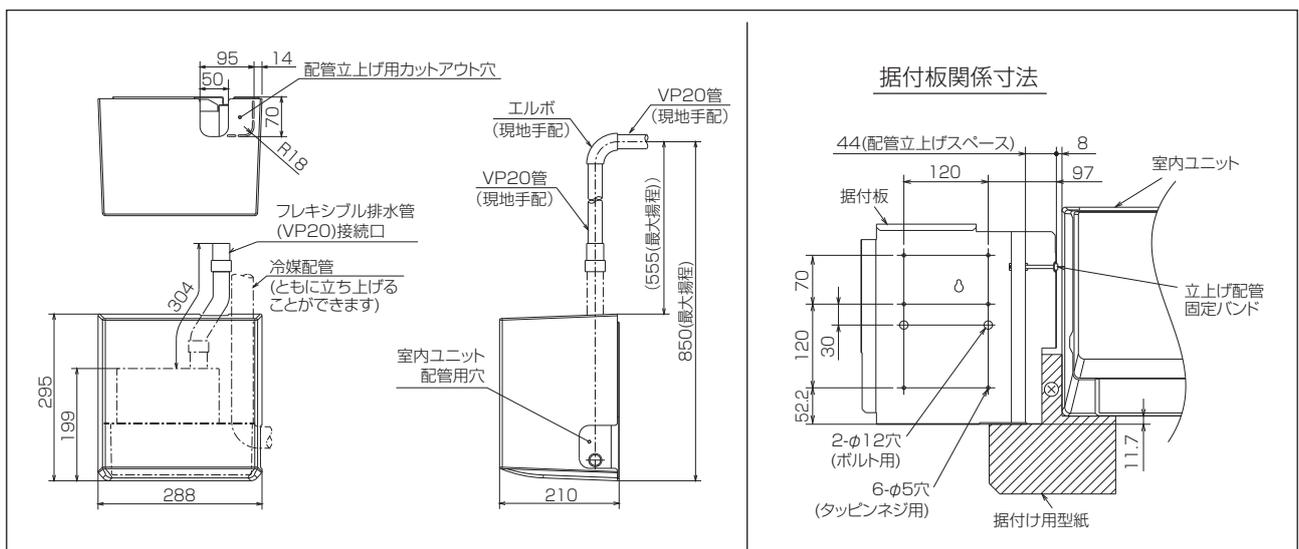
対象ユニット

- PK-RP40 ~ 50LA

仕様

形名	PAC-SK01DM	外装	材質	カバー: PS樹脂
定格電源	AC200V 50/60Hz	色(マシNo.)		アイスホワイト<0.7PB 9.2/0.4>
消費電力	3.9W	運転使用温度範囲		室内ユニットの運転使用温度範囲に同じ
運転電流	0.05A	駆動用モーター		DC ブラシレス (E種絶縁)
ドレン揚程	ドレンアップメカ下面より最大 850mm	ドレン配管		ドレン排出口へ接続 PVC管 VP-20 (外径φ 26) 対応
吐出水量	24L/h 以上	付属品		ドレンホース (本体・室内ユニット接続用) 1本 フレキシブル排水管カバー 1本・バンド 2本 (排水管固定用、配管固定用各 1本) 据付用型紙 1枚・取付ネジ 7本
外形寸法	H295 × W288 × D210mm			

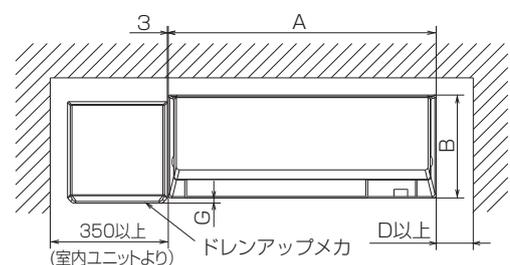
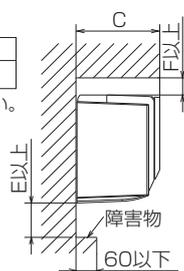
外形図 (単位: mm)



据付・サービススペース

	A	B	C	D	E	F*	G
40~50LA形	773/898	299	237	150	250	75	15

※ 天井に廻り縁がある場合はその寸法を考慮して据付けてください。

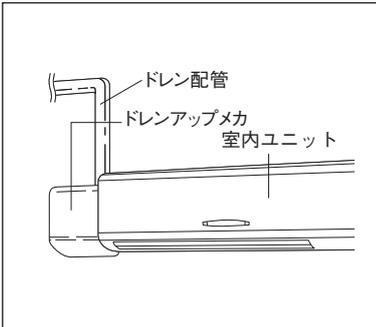


壁掛形

ドレンアップメカ

● PAC-SK19DM

使用目的 / 用途



- “ドレンアップメカ” は、ドレン配管の横引き距離が長く、ドレン勾配が取れない場合に使用する部品です。
- 本品は室内ユニット左側の壁面の取り付けとなります。
(ユニット外付けタイプ)
- 850mm (本体下端より) のドレンアップが可能となり、配管工事の自由度が上がります。

注意

- ・排水側は下り勾配 (1/100 以上) としてください。
- ・本品から外部に至るその間で、ドレン配管は全て断熱を施してください。
- ・PAC-SH75DM/PAC-SH94DM と本製品との互換性はありません。

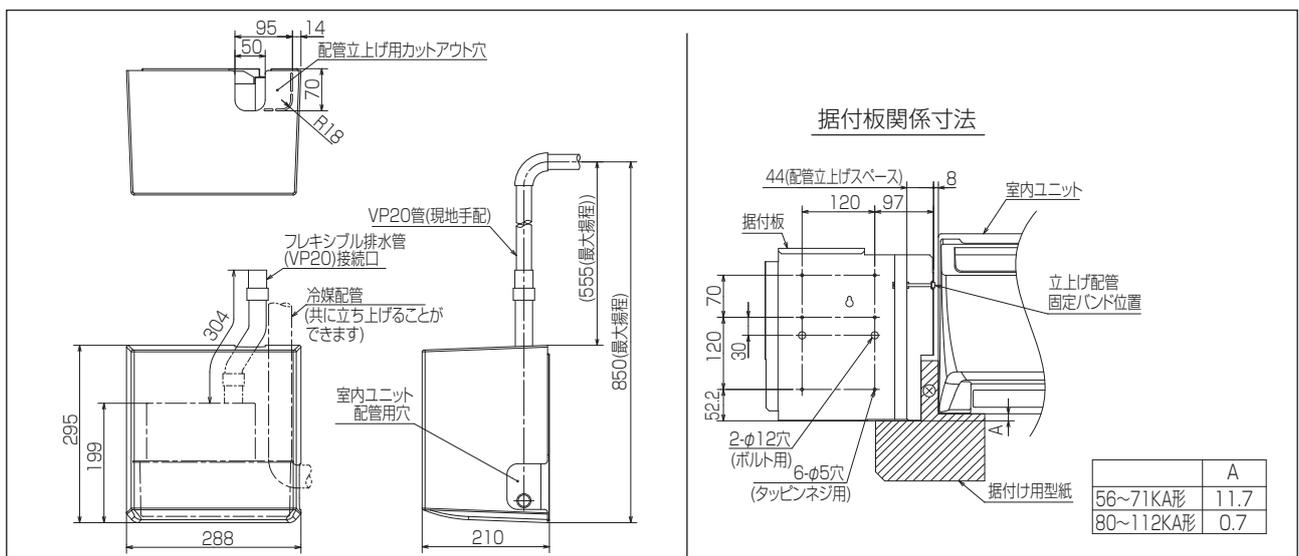
対象ユニット

- PK-RP56 ~ 112KA17

仕様

形名	PAC-SK19DM	外装	材質	カバー：PS樹脂
定格電源	AC200V 50/60Hz		色 (マテルNo.)	クリアホワイト<1.OY 9.2/0.2>
消費電力	3.9W	運転使用温度範囲		室内ユニットの運転使用温度範囲に同じ
運転電流	0.05A	駆動用モーター		DC ブラシレス (E種絶縁)
ドレン揚程	ドレンアップメカ下面より最大 850mm	ドレン配管		ドレン排出口へ接続 PVC管 VP-20 (外径φ 26) 対応
吐出水量	24L/h 以上	付属品		ドレンホース (本体・室内ユニット接続用) 1本 フレキシブル排水管カバー 1本・バンド 2本 (排水管固定用、配管固定用各 1本) 据付用型紙 3枚・取付ネジ 7本
外形寸法	H295 × W288 × D210mm			

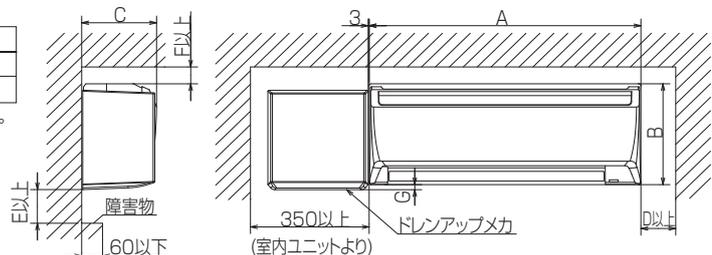
外形図 (単位：mm)



据付・サービススペース

	A	B	C	D	E	F*	G
56~71KA形	1100	325	263	27	250	100	15
80~112KA形	1170	365	300	100.5	250	108	4

*天井に廻り縁がある場合は、その寸法を考慮して据付けてください。



4-2 ドレンアップメカ本体の取付け

● ドレンアップメカ本体を据付面に固定します。
 (1) 据付枠の本体取付け用穴の内、上側の2ヶ所(図7の矢印)に取付けネジを約半分まで仮締めし、本体をネジに引っ掛け固定します。
 (2) 水準器を使用して本体の水平を確認した後、4ヶ所ともネジを本締めして本体を固定します。

注意 ドレンアップメカは必ず水平に取付けること。
 ● 水漏れなどを起こし、壁面などを汚す原因となります。

5. 冷媒配管工事

※室内ユニット据付工事説明書の冷媒配管接続の項目を参照してください。

- 冷媒配管とドレン配管をまとめて立ち上げる場合
 (1) 左配管の工事要領で配管工事を行ってください。
- 据付枠の配管立上げスペース内(図2)に収まるように施工してください。
- 配管工事時、室内ユニットが4-1(図6)でマーキングした位置からずれないようにしてください。
- 冷媒配管の曲げ半径R80以下に施工してください。
 (曲げ半径R80より大きい場合、化粧カバーが配管と干渉し取付けできません)
- 立ち上げる配管は据付枠の角穴に適したバンド⑥(図4)で固定してください。
- 冷媒配管を室内ユニットの左配管スペースに図8のように配置し、まとめてください。

6. ドレン配管工事

6-1 ドレンホースの接続

- (1) ドレンアップメカ本体のドレン接続口に室内ユニット左側の排水口に取付けたドレンホース④を接続します。接続部は必ず塩ビ接着剤にて水漏れのないように施工してください。(図9)
- (2) 現地ドレン配管とドレンアップメカ本体天面のプレキシパル排水管を接続してください。接続部は必ず塩ビ接着剤を使用し、付属のバンド⑥で固定して水漏れのないように施工してください。(図10)
- (3) 付属のプレキシパル排水管カバ⑥を使用して、ドレンアップメカ天面のプレキシパル排水管を断熱してください。(図10)

6-2 ドレン配管工事

- (1) ドレン配管工事は以下の項目に従って作業してください。
- ドレン配管は室外側(排水側)が下り勾配(1/100以上)となるように、途中に支持金具を設けてドレンアップメカ配管の概元(過度の荷重が加わらないように)にする。同時にドレン配管の液打ちをなくしてください。エアー抜き管は絶対につけず、ドレンが取出ます。
- ドレン配管は硬質塩ビパイプVP20(外径φ26)を使用し、接続部は必ず塩ビ接着剤にて水漏れのないように施工してください。
- ドレン配管には必ず市販の断熱材(発泡ポリエチレン：比重0.03、肉厚10mm以上)を巻いて断熱してください。
- ドレン配管の排水出口部に臭気トラップを設けないでください。
- 集合配管の場合下図のように本体のドレン出口部より約10cm程度低い位置に集合配管(幹排水管)がくるようにし、かつ集合配管はVP30H程度のものを下り勾配(1/100以上)となるように施工してください。
- ドレン配管の出口高さ(ポンプ構程)はドレンアップメカ下面より85cmですが、立上り管の途中に構引き管がある場合、運転停止時にあけるドレンの逆流量がよくドレンパンからオーバードレンになりますので、ドレン配管は必ずまっすぐ、垂直に立上げてください。また、最上部に下図のような逆流防止管を設け、構引き配管からの逆流を防いでください。

現地にて製作してください。
 (単位:mm)
 塩ビ配管VP20用
 市販エアー抜き管使用

7. 電気配線工事

7-1 室内ユニットの準備

※電源がOFFであることを確認してから作業してください。

- 室内ユニットのバネリ、電気品箱のカバーを取外します。(※室内ユニット据付工事説明書の室内ユニット設置の項目を参照してください)

7-2 配線取廻し

- 配線は右図のように室内ユニットの左配管スペースをとおし、電気品箱まで取回してください。
- リード線を室内ユニットの制御基板コネクタに接続後、リード線のあまりをドレンアップメカ内の配線収納スペースに収納してください。(クランプ固定)

7-3 配線工事

- 制御基板のコネクタ(CNP)とCN4Fとリード線を接続し、来る位置まで基板収納ケースを引き出してください。
- 接続コネクタ付のリード線は制御基板のコネクタ"CNP"とCN4Fにそれぞれ接続します。
 このとき、制御基板のCN4F端子には短絡コネクタ(不要になります)が装着されていますので、これを取外してください。
- 制御基板上に発熱体(ヒートシンク)がありますので、リード線が触れないように注意してください。

電気配線図

記号	名 称
IB	室内制御基板
CNP	コネクタ(ドレンポンプ)
CN4F	コネクタ(フロートスイッチ)
DP	ドレンポンプ
FS	フロートスイッチ

注: □ 回はコネクタ線線を示す。

配線の取廻し(電気品箱付近)

- PK-PP40~50KAの場合 (図13)
- PK-PP56~71KAの場合 (図14)
- PK-PP80~112KAの場合 (図15)

8. 試運転

★ ドレンアップメカの据付け完了後、試運転により排水が確実に排出されていること、各接続部からの水漏れのないことを確認してください。

- (1) 注水
 室内ユニットのドレンパンに約800cc注水してください。(※室内ユニット据付工事説明書のドレン配管(排水)の確認項目を参照してください)
 (※注入する水量が多過ぎるとドレンオーバーフロー保護動作による異常停止により排水できない場合があります)
- (2) 試運転
 室内ユニット据付工事説明書の試運転の項目に従って、冷房運転を行い排水、並びに漏水のないことを確認してください。
 ※暖房シーズン中にドレンアップメカを据付けた場合、ドレン抜きを行ってください。
 ドレン抜きは、本体側面ドレンプラグを取外せば行えます。このときドレンの受皿をご用意ください。
 ドレン抜きが完了しましたらドレンプラグをもとどおりにはめ込んでください。
- (3) 確認後、化粧カバーをもとどおりに取付けてください。
 ※4-1で付けたマーキング位置と室内ユニットの左側部が合致しているか確認してください。
 (化粧カバーが取付かない、もしくは化粧カバーと室内ユニットとの間に隙間が生じます)

● 配線工事が終了したら、爪が外れていないことを確認した後、室内ユニットの電気品箱のカバー、バネリをもとどおりに取付けてください。